古石ひでさと4期目に向かっての議会活動　ひでさと

古　石

後援会だより

URL：http://古石.com/

第　４０４９号
発行令和３年３月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２５－２２２５

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

日本ハム球場　開業まで後１年

開業まで１年 ７割完成

新球場 響くつち音

【北広島】プロ野球北海道日本ハムの新球場「エスコンフィールド北海道」（北広島市）は１年後に開業を控え、工事の進捗状況が７割（２月末時点）まできた。特徴的な三角屋根は、開閉する部分が６月に完成して初めて閉まり、10月にはフィールドに天然芝が張られる予定だ。21日に報道陣に公開された内部は客席とフィールドの間隔が近く、開放感と臨場感にあふれる様子が明らかになった。12月予定の竣工へ向け、変化を続けるボールパークの今に迫った。

（後藤耕作、中橋邦仁）

新球場を核とする「北海道ボールパークFビレッジ」イメージ図（CHIKEI）

野球だけじゃない にぎわい創出

新球場は北広島市共栄が所在地で、広さ約30㌶の「北海道ボールパークFビレッジ」（BP）の中核施設となる。

地上６階地下２階で建築面積は約５㌶。収容人数は約３万５千人を見込む。BP内の道路整備費などを含めた総事業費は約600億円。2020年５月に着工し、今年12月に竣工する予定だ。２月末時点での工事進捗率は69・5％。

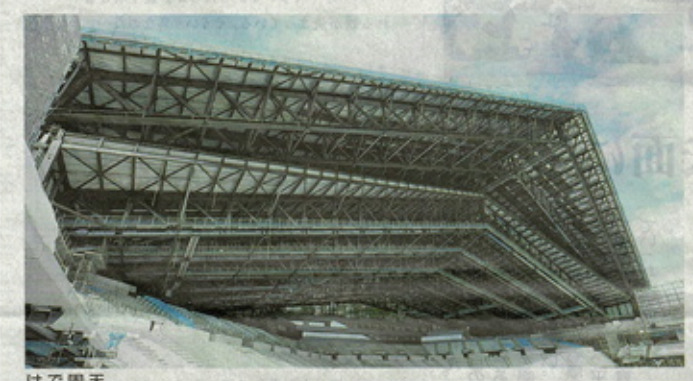
球場内には商業性を高める温浴施設やホテル、クラフトビール醸造所兼レストラン、キッズエリアなどを造り、飲食店は約60店舗が入る見通し。

このほか、球場周辺には豪華なキャンプ「グランピング」の施設や分譲マンション、認定こども園などが併設される。

最寄りの北広島駅まで約1・5㌔の距離で、同駅と球場を結ぶシャトルバスが運行される。北広島市は新球場の北東側に、原則事業費を市が負担する「請願駅」の設置をJR北海道に求めており、27年度の開業を目指す。

電子版に動画

2020年５月の着工から延べ40万人を超える作業員が携わり、７７割が完成した新球場。上空からは３層構造の客席が見える。一、三塁側の観覧客席上では、国内最大級の大型ビジョン（縦16㍍、横86㍍）の設置がそれぞれ進む＝21日、本社ヘリから（植村佳弘撮影）



新球場の横では球場内と同じ環境で、天然芝の生育試験が行われている。寒冷地仕様の品種となる。実際のグラウンドの約7600平方㍍に植える芝は千歳市内で栽培しており、10月に移植する予定＝16日（国政崇撮影）

センターバックスクリーン奥にそびえるのは高さ最大約70㍍、幅180㍍のガラス壁。網の目のように張り巡らされた格子の間から、自然光が降り注ぐ。外野部分の天然芝への光量を考え、南東に位置する＝21日（国政崇撮影）

三塁側の観客席入り口はグラウンドが一望できる開放感に包まれる。球場内を周遊できる「コンコース」があり、エスカレーターで違う階層につながる＝21日（国政崇撮影）

天然芝の球場では国内初となる開閉式屋根。固定と可動の２枚構造で、可動の屋根は25分で開閉できる。荒天時や冬季以外は屋根を開ける計画だ＝21日（国政崇撮影）

コミバスに森の動物集合

マヤマックスさん 描写の過程を公開

【岩見沢】４月から運行する「東部丘陵線コミュニティバス」車両の外装に、市内在住の画家MAYA MAXX（マヤマックス）さんが絵を描く作業が公開され、赤や青のシカやクマが描かれた車両に子供らが見入っていた。

コミュニティバスはタクシー会社の日の出交通が運行。３月末で廃止の北海道中央バスと市営バスの方字線に代わり、JR岩見沢駅前と東部丘陵地域を結ぶ。

マヤさんは15日に市内の電気工事業「創電」の倉庫で作業を始め、公開した19、20日は正面に赤や青のクマ、側面に赤やピンク、水色でハートなどを描いた。キツネ、リスなど市内に生息する動物を選んだといい、車体を見た市立南小４年の大西堂太碧(10)は「いろいろな動物がいて岩見沢の自然を感じられる」と話した。

マヤさんは「走ってきたバスを見て、気分が上がるように動物を描いた。このバスに乗りたいと思って来てもらって、美流渡なども知ってもらえれば」。作業は22日に終えた。

（石橋治佳）

作業の様子を公開したマヤマックスさん（左端）

道内匠の技術 結集

新球場の建設工事では、屋根や柱などに道内企業の匠の技が生かされている。が詰まった歴史的プロジェクトに加わった企業の技術やこだわりを紹介する。

台車・中山機械（北広島）　屋根動かす

柱・上田商会（登別）　高さ最大37㍍ 橋脚並み

雨を防ぐ２層のシート

屋根防水・北開技研工業（札幌）

地元から

れんが・米澤煉瓦（江別）　色あせぬ「伝説」の刻銘